

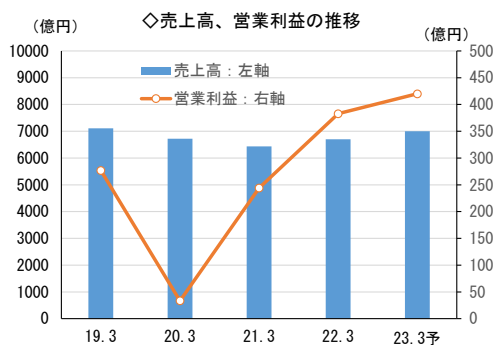
# 企業ニュース フジクラ

(東証プライム : 5803) <https://www.fujikura.co.jp/>

作成者: 奥村義弘

## 諸改革を大胆に推進

1910年設立の電線大手。20.3期の急速かつ大幅な業績悪化を受けて基本戦略を「早期の事業回復への集中」に転換し、21.3期下期以降を「事業再生フェーズ」と位置付けて諸改革を推進。光ケーブルトータルソリューション事業の強化、エネルギー事業子会社の売却、設備投資の厳選、拠点の統廃合、不動産売却等、様々な施策による固定費低減・事業安定化、最適事業ポートフォリオを迫及。エネルギー事業及びFPC（フレキシブルプリント配線板）事業については、分社・再編を決定した。22.3期の売上高構成比はエネルギー・情報通信53%、エレクトロニクス27%、自動車18%、不動産1%、その他1%。



(出所)フジクラ資料よりCAM作成

## 収益性を大幅に改善

22.3期の連結業績は売上高が6,704億円、前期比4%増、営業利益が383億円、同57%増。エレクトロニクス事業における採算重視の受注戦略による減収はあったが、情報通信事業における各国のデータセンタ、光ファイバ網構築への需要が強かった。またコロナからの回復や銅価の上昇等により増収となった。営業利益面では半導体不足の影響はあったが、情報通信事業の好調やエレクトロニクス事業における採算重視戦略による品種構成の改善が増益寄与した。最終利益は、固定資産の売却や関係会社株式の売却による特別利益の計上が利益を押し上げた。

23.3期の会社計画は売上高が7,000億円、前期比4%増、営業利益が420億円、同10%増。エネルギー・情報通信分野は需要好調だが、材料調達難や原材料費、輸送費の高騰で減益を見込む。エレクトロニクス事業は、FPCの高採算品構成比の上昇、電子部品の大型受注の寄与で増益を見込む。自動車事業はコロナ影響や半導体不足の影響が下期から徐々に回復、増収・収益改善を見込む。光ファイバの製造に使用されるヘリウム不足の問題はあるが、限られた資源を戦略商品である細径高密度型光ファイバケーブル（SWR/WTC）事業の拡大に集中投資する。また液体ヘリウム冷却（低温超電導）から液体窒素冷却（高温超電導）へのシフトを加速する。

## [株価動向・投資判断]

今期は増配を計画。構造改革の進展、業績伸長を反映したもので前向きに評価できよう。

<5803 フジクラ 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.3	643,736 (▲4)	24,422 (630)	18,380 (—)	▲5,369 (—)	▲19.5	0.00
22.3	670,350 (4)	38,288 (57)	34,089 (85)	39,101 (—)	141.9	10.00
23.3 予	700,000 (4)	42,000 (10)	37,000 (9)	22,500 (▲42)	81.6	16.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2022/5/20)	779 円
年初来高値 (高値日)	779 円 (22/5/20)
同 安値 (安値日)	500 円 (22/3/9)
予想 P E R (23.3 予)	9.5 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	799.8 円
P B R	0.97 倍
予想配当利回り	2.05 %
(1株当たり配当金 16.00 円)	
R O E (22.3)	20.4 %
発行済み株式数	29,586 万株